

土砂災害から身を守る

「台風が近づいている」、「豪雨となる可能性がある」というニュース・気象情報を見聞きした場合、災害の備えをもう一度確認しましょう。また、危険な場所には絶対に近づかないようにしましょう。

■確認しましょう

- 非常用持ち出し品の点検をしましょう
- 雨や風が強くなる前に、家屋の補強などの対策をしましょう
- 避難所までの道順を確認しておきましょう

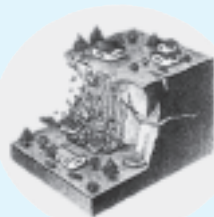
■土砂災害の前ぶれ

過去の事例から、土砂災害には前ぶれ現象があるといわれています。以下のような現象が起きたら、躊躇なく避難しましょう。

【がけ崩れ】

雨水がしみ込み、やわらかくなって斜面が急に崩れ落ちます。日本で最も多い土砂災害で、犠牲となる人も最も多い災害です。

前ぶれ現象 ⇒ がけからの水が濁る
地下水やわき水が止まる
斜面のひび割れ・変形がある
小石が落ちてくる
がけから音がする など



【地すべり】

ぜい弱な地質の土地に豪雨が降り注ぎ、やわらかくなった斜面の一部が地下の影響と重量でゆっくり下方で移動するものです。発生すると、家屋や道路など広範囲に被害が広がります。

前ぶれ現象 ⇒ 地面にひび割れができる
井戸や沢の水が濁る
家や樹木、電柱などが傾く
がけや斜面から水が吹き出す
風がない時に、木の枝先がこすれ合う音がする など



子どもたちを守るために

川や用水路などで夢中で遊んでいると、子どもたちは天気の変化に気がつきにくいものです。外にいる時は、空や川の様子に注意するよう、家庭で話すことが大切です。

■空の変化に注意しよう

「真っ黒い雲が近づいてきて、急にあたりが暗くなってきた」「雷の音が聞こえてきた」「急に冷たい風が吹いてきた」…。このような時は「積乱雲」が近づいてきた証拠です。積乱雲は、局地的豪雨をもたらす可能性がある代表的な雲です。



真っ黒い雲が近づいてきた



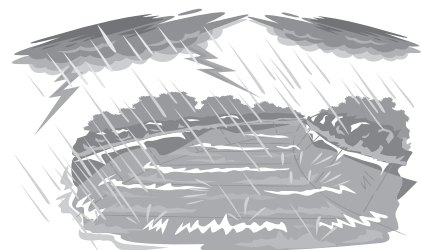
雷の音が聞こえてきた



急に冷たい風が吹いてきた

■川の様子に注意しよう

「川の水量が増えてきた」「川の水が濁ってきた」「上流から流木や落葉が流れてきた」などといった場合は、川の上流で大雨になっている可能性があります。川の様子を見続けることなく、安全な場所に行きましょう。安全が確認されるまで絶対に戻ってはいけません。



■人が行動できなくなる水の深さ

子どもの場合はたった20cmで自由に動くことができなくなります。これに水の流れが加わるとあっという間に流されたりします。大人の男性でも70cmを超えると自由に動けなくなるので、浸水前の避難が非常に重要です。



9月は防災月間です。災害は、いつ訪れるかわかりません。日頃の備えが大変重要です。みなさんの備えはどうか？

今年の防災特集は、豪雨に対する特集です。近年は、10月まで気温が高い状態が続くこともあり、また台風の上陸も多い季節です。

平成27年9月の台風18号による「関東・東北豪雨」は、特に被害が甚大な災害でした。

この台風は、関東を直撃しなかったにもかかわらず、当時の気象状況が影響し、“線状降水帯”が発生してしまいました。その結果「鬼怒川氾濫」という災害になってしまいました。

幸い、嵐山町にはあまり被害はありませんでしたが、いつ同ような気象条件が起こるかもしれません。

台風が近づかなくても土砂災害は発生します。

局地的な豪雨から身を守るための取組を考えてみませんか？

忘れていませんか？9月の災害

忘れていませんか？8月下旬から9月にかけて毎年関東地方に災害をもたらす豪雨・暴風が記録されています。

◆ここ数年の災害をもたらした気象事例

平成28年（2016年）		
台風第7号、第11号、第9号、第10号及び前線による大雨・暴風	8月16日～8月31日	東日本から北日本を中心に大雨・暴風。北海道と岩手県で記録的な大雨。
平成27年（2015年）		
台風第18号等による大雨 ※平成27年9月関東・東北豪雨	9月7日～9月11日	関東、東北で記録的な大雨。
平成26年（2014年）		
台風第18号による大雨と暴風	10月4日～10月6日	東日本太平洋側を中心に大雨。沖縄・奄美と西日本・東日本の太平洋側を中心に暴風。
平成25年（2013年）		
台風第26号による暴風・大雨	10月14日～10月16日	西日本から北日本の広い範囲で暴風・大雨。
台風第18号による大雨	9月15日～9月16日	四国地方から北海道の広い範囲で大雨。

災害は予想がつきません

他の地区の過去の突然の豪雨では、多くの被害をもたらされています。災害に遭われた方の声を挙げてみました。

- たった10分で約1m30cm川の水位が上昇した。
- これまでに見たことのないような水の増え方をした。
- 長いことここに住んでいるが、こんな風景は見たことがない。

突然の大雨による被害は、日常では考えられない状況を引き起こしているのが分かります。



提供：国土交通省関東地方整備局

9月は竜巻も多く発生します

9月は、竜巻の発生回数が年間を通じて最も多い時期です。

近年では、平成25年（2013年）9月、滑川町においても発生し、被害も出ています。その時の状況は以下のとおりです。

- 発生日時：平成25年9月16日午前1時30分から30分間程度
- 発生場所：埼玉県比企郡滑川町福田で発生し、熊谷市東別府で消滅
- 強さ（藤田スケール）：藤田スケールF1
- 被害の範囲：長さ約13km、幅は約200m
- 被害状況：半壊12棟、全壊10棟、住家被害のうち一部損壊364棟（滑川町 平成25年9月24日9時現在）

気象台関係者の聞き取りによると、「ものすごい音（ゴー、ガラガラという音）がした」、「バーンという音がしたので外を見たら電線から火花が散っていた」などとの報告があります。

資料：「現地災害調査速報（平成25年9月30日）」熊谷地方気象台他より



〔当時の竜巻の経路〕
（資料をもとに地域支援課で作成）